

第64回 卒業式 学長式辞

2020.3.14 学長 西内みなみ

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

今日の良き日は、皆様にとって特別な記念日となります。新型コロナウイルス感染が拡大し続けています。この卒業式だけは、どうぞ挙行できますようにと、私たち教職員は、毎日、毎日、祈っていました。9年前、2011年の卒業式は、挙行できませんでした。なぜなら、卒業式の前日が、3月11日だったからです。

朗読された聖書のみ言葉、「互いに愛し合いなさい」このみ言葉が繰り返し述べられていました。卒業生の皆様は、この2年間で「互いに愛し合う」ということを実感して頂けたでしょうか。

私は、皆様と2年間を共にして、皆様が「互いに愛し合っている」ことを、日々、強く実感させて頂きました。素晴らしいプレゼンテーションをするキャリア教養学科の皆様の、共に学ぶ姿勢に、カフェテリアでの学内実習で、美味しいランチを出して下さる食物栄養専攻の皆様の笑顔に、芸術表現発表会のオペレッタで、感動的な舞台を創り上げたこども保育コースの皆様の涙に、皆様同士が互いに愛し合っていることがよく分りました。

さらに、皆様は、キャンパスを出て、地域社会や様々なコミュニティで、多くの方々と愛し合ってくださいました。福島市、南相馬市、国見町等で、幼児から高齢者まで関わるボランティア活動をし、さらに、修道会本部のあるカナダでは国際ボランティアをされました。

皆様が様々な方々と互いに愛し合うことによって、建学の精神である「愛と奉仕に生きる」ことを実践的に学んで下さったことが、よく分りました。

この2年間、私たち教職員に、皆様の成長を共に喜ぶ幸せを頂いたことに、心から感謝します。

また、多くの皆様が、たくさんの資格と免許を取得されました。本日は、極めて成績優秀・品行方正であった方を、皆様の代表として表彰させて頂きました。

こうした見える学習成果を得るための皆様の努力には、はかりしれない価値と意義があります。生涯、自分自身の誇りとして大切にしてください。この2年間で、それだ

け努力されたという証です。そして、それは、ご指導頂いた教職員の誇りでもあります。

桜の聖母短期大学は、学生一人ひとりが、喜び、賛美し、感謝することを学ぶ、聖母マリアの学校です。皆様が手にされた学位、資格や免許そして表彰を、ご自身の誇りにして頂くのと同時に「愛と奉仕に生きる良き社会人」として、これからも誰かのために役に立ててください。それが、今日まで、皆様と共に、喜び、賛美し、感謝してきた私たち教職員一同の祈りです。

卒業生の皆様、今日という日は、これまでの人生の到達点であると同時に、これからの人生への出発点でもあります。これまでの人生への感謝と、これからの人生への希望を胸に、桜の聖母短期大学という学び舎を巣立ってください。

そして、これからの人生という大海原で、お幸せな時、嬉しい時、楽しい時は、桜の聖母短期大学の事を忘れてください。しかし、あなたの人生で、苦しい時、辛い時、悲しい時には、母校である桜の聖母短期大学のことを思い出して下さい。そして、何時でもいらして下さい。卒業生になられる皆様の、両手を広げてお迎えできる母校で在り続けることをお約束いたします。

保護者の皆様、高いところから、たいへん恐縮ですが、大切なお嬢様のご卒業、おめでとうございます。お嬢様のご卒業まで、多大なるご支援を賜りました保護者の皆様に、深く感謝します。ありがとうございました。

桜の聖母短期大学は、地域に深く根ざし、創立者聖マルグリットブルジョワの心をたずねながら、教育いちずにと「小さな単純な歩み」を続けます。人々から必要とされる「小さくとも教育で輝く」学び舎で在り続けます。

卒業生の皆様とそのご家族に、そしてこの桜の聖母短期大学に集うお一人おひとりに、主イエスキリストと聖母マリア、聖マルグリットブルジョワの豊かな祝福をお祈りして、式辞といたします。